

海獣人

東カリブ編⑧

2日目(2024年10月17日)の午前は、国際捕鯨委員会(IWC)コミッシヨナーで、グレナディン諸島関連業務のトップ、エドウィン・スナッグ氏を表敬訪問した。鯨類の持続的利用支持に関して結束強化を要請するためである。

う呼称をどう考えるかーベグウェイ島に住んでいるのは先住民ではないと思われることから質問。

これに対して、ペルーですぐに支払い手続きをしたとの回答を得た。今回のIWCでは、議長判断で特例により支払い計画への署名で少額の債務の国には投票権が付与されている。

また、棄権については、ブラジルを筆頭に南米諸国との関係を考慮して、01年ゴンザルベス首相就任後の02年以後は棄権し続けていると説明。

先住民生存捕鯨ではなく、個人的には文化捕鯨という呼称がいいと思う。実際に、今回は先住民という単語の含意を考慮してほし



松田 彩
まつ だ あや

42期政経塾生
1988年7月広島市生まれ、36歳。米国・オハイオ州立大学国際関係学部卒、中国・北京大学院哲学部中国哲学専攻。両国で12年間生活した。2021年度松下政経塾に入塾し現在4年目。日本と両国の3か国がバランスの取れた関係が続け、平和な生活を守るために、為政者を志す。食料安全保障や離島防衛などの観点から、日本の一次産業を強化したいと考え、特に漁業振興を探索。海洋大国・日本を目指す。



ハリケーン・ベリルの襲来

「と言ったが、肩をすくめ仕方がない」と表現した。さらに筆者が「日本と同じ理念を掲げているのな

察した。こちらでもハリケーン・ベリルの被害でコンクメン・ベリル壁や施設などが壊れていた。

22年10月にスロベニアで行われた第68回I

ザトウの島、ベグウェイ

WCへの欠席理由を聞く

と、「前年の42年ぶりの火山噴火の被災対応に追われていたため」ということだった。

今年の第69回については、次の3点質問した。

①SVGは分担金を滞納していたため投票権がなかったが、いつ支払ったのか
②南大西洋鯨類サンクチュアリ提案を棄権した理由は
③6年に1度の先住民(アボリジナル)生存捕鯨枠が更新されたが、先住民とい

いと発言したと答えた。

先住民という単語については、9月23日からの総会前日、先住民生存捕鯨小委員会、関係各国からも細な問題とされた。しかしながら単語を変えたいとする意見が多い中、アラスカエスキモー捕鯨委員会は、アボリジナルの言葉を残さない、米国の法律上、保護の対象にならないと主張していた。

そのほかSVG国内での反捕鯨団体からの嫌がらせ

イ島の捕鯨事業創始者のやしやごの1人。次女もベグウェイ島出身だが、カナダでの教育の影響か、父親と異なり反捕鯨の立場に立つ。

02年以降、与野党が逆転。首相が代わってもベグウェイ島を含む選挙区では今もミッチェル氏の影響力は強い。

最後に、22年11月パナマで開催されたワシントン条約(CITES)の第19回締約国会議で、ヨシキリザメを含むメジロザメ科54種の付属書II掲載決議について聞いた。

54種の中には資源評価がよい種もある。標本判別が難しい類似種(似たもの条項)という理由で、正当な科学的根拠(資源評価)に基づかず、貿易制限をした決議の不当性を日本は強調した。

スナッグ氏も「日本と同じ考え方に立つ」と賛同。「世界は不明瞭なものは保護するという傾向があり、SVGにとって重要なコンク貝も制限がかかるかもしれないと思う」と述べた。筆者は「それは悲観的過ぎ

ら、サンクチュアリについて棄権ではなく、投票してほしい」と話すと、スナッグ氏は、「ゴンザルベス首相の命令なので個人では決められない」と答えた。

1時間30分ほど意見交換したあと、ベグウェイ島に渡った。フェリーで約35分で着く。

小さな丘から島全体を見渡したり、ザトウクジラの骨やコンク貝で作った工芸品を見た。

翌日18日の朝、漁港を覗



鯨油入りのビンと袋詰めクリスプ(鯨皮をいったもの)



ホンダワラが繁茂しボートも出せない